



フィルタリングの仕組みと課題

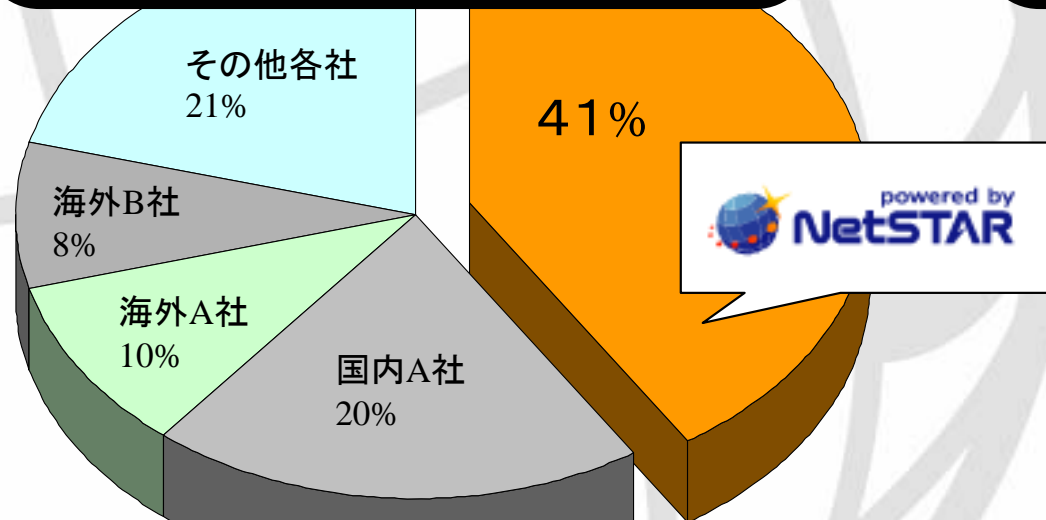
2007年12月27日
ネットスター株式会社

1. ネットスター株式会社とは

- 世界中のウェブサイトを探索、リスクコンテンツを分類したURLリストを提供する日本最大の専門企業
 - 35名体制、365日無休での目視確認作業
 - 一般サイト向けの他に、携帯サイト専門チームも活動

法人向けURLフィルタリング ナンバーワン

携帯事業者向けリスト提供 オンリーワン

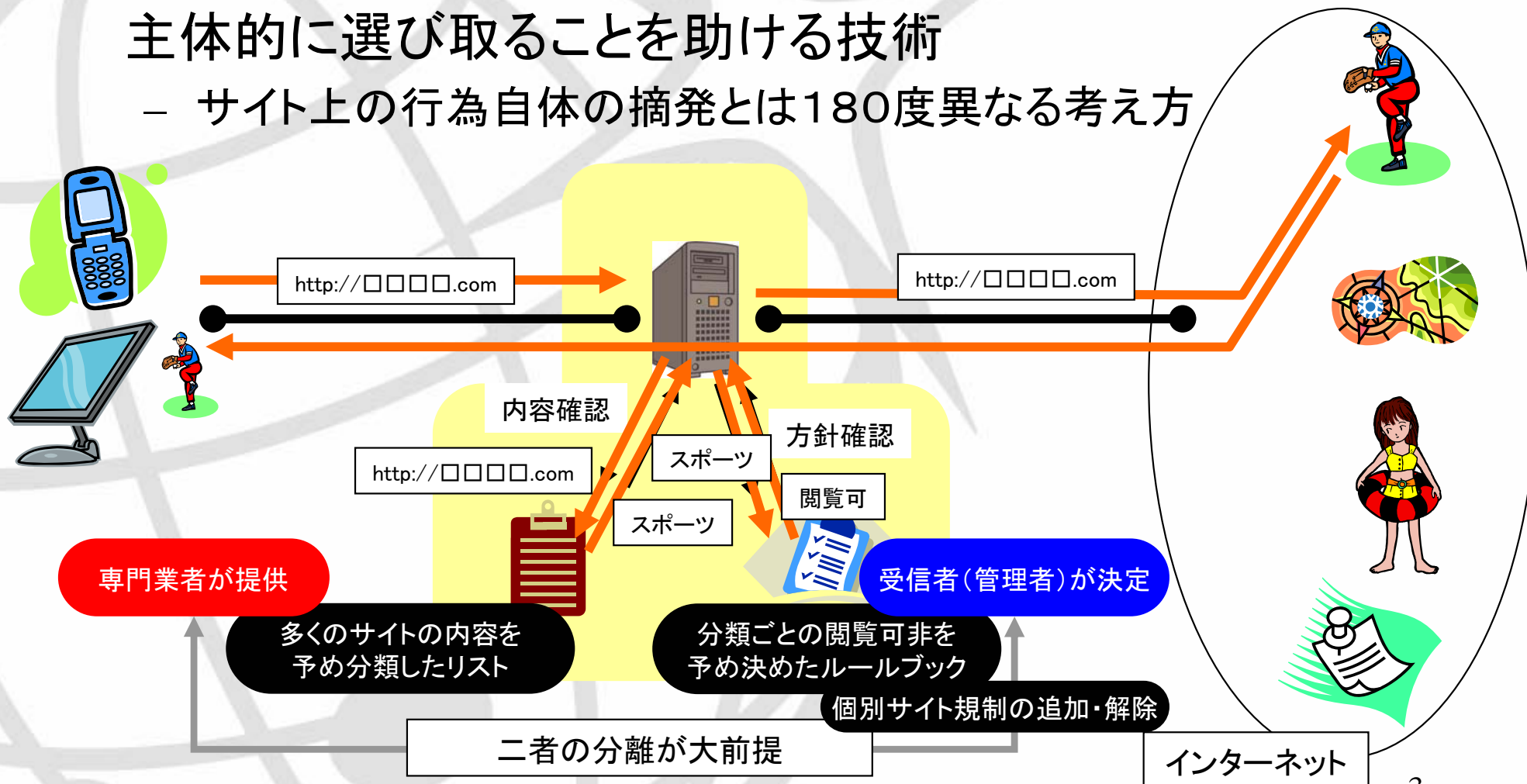


※2005年度フィルタリング市場占有率(出荷実績金額ベース)
出所:富士キメラ総研「2006パッケージソリューション・マーケティング便覧」

※上記各社の迷惑メール対策およびURLフィルタリングにリスト提供
(ウィルコムはURLフィルタリングのみ)

2. フィルタリングとは

- 発信の自由を損なうことなく、受信者側が必要なものを主体的に選び取ることを助ける技術
 - サイト上の行為自体の摘発とは180度異なる考え方



3. 専門業者の提供リストでの分類例

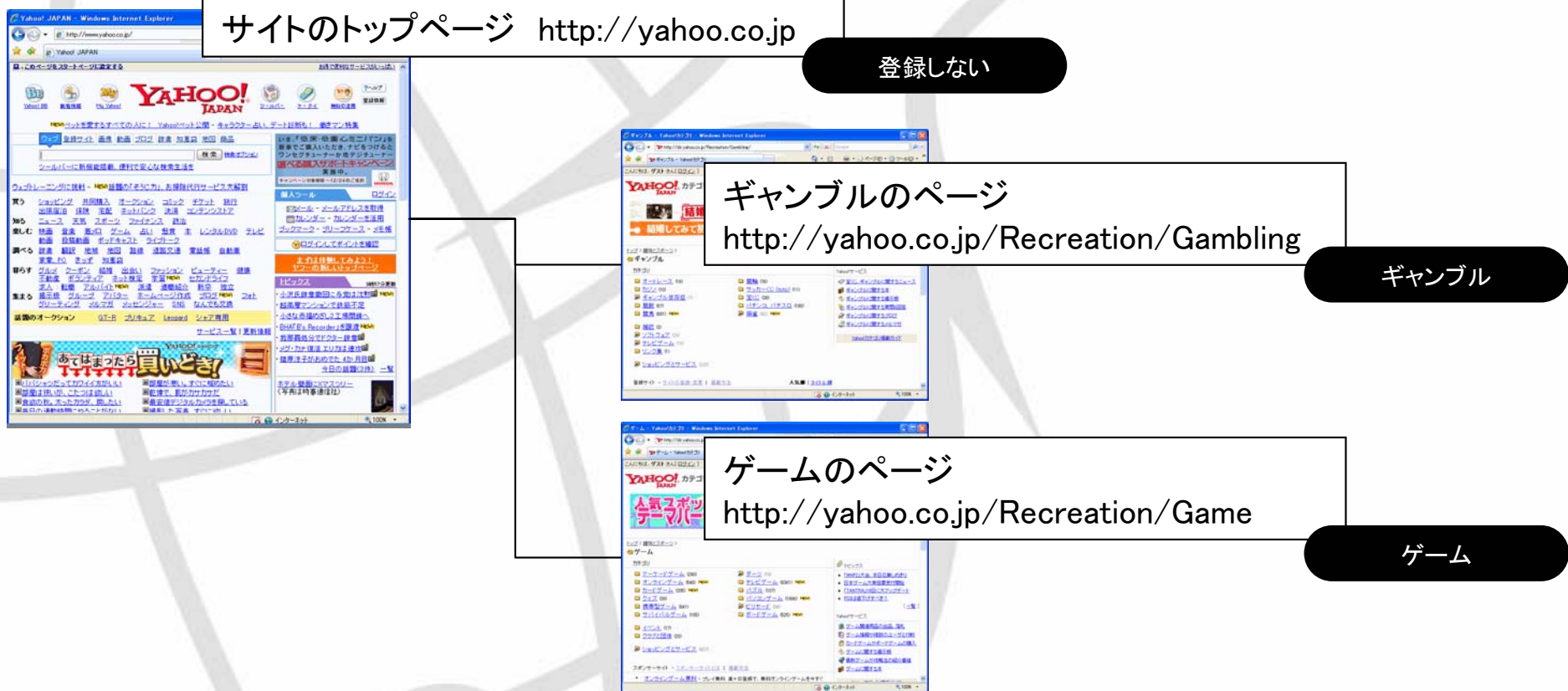
- リスクコンテンツを数十種に分類するのが常識的
 - ワンクリック詐欺やフィッシングのような**オンライン詐欺**サイト
 - 禁止薬物や銃器などの売買情報のような**不法情報掲載**サイト
 - **アダルト**サイト
 - **出会い系**サイト
 - 不正コード(**ウイルス**・スパイウェア)配布サイト
 - 掲示板やブログ、SNSのような**コミュニティ**系サイト
 - オンライン**ストレージ**サイト
 - **ゲーム**サイト
 - 飲酒・喫煙・グルメなどの**娯楽**サイト
 - 株取引を含む**金融情報**サイト
などなど
- 制御したい「リスク」は利用の目的(懸念)によって大きく異なる
 - 分類基準は世の中の様々な想定リスクを「最大公約数」として表現したもの
 - 多くの利用者がリストを共有することでコスト分散
 - 利用者から専門業者へのフィードバックで基準自体も変わっていく健全サイクル

参考：専門業者によるURLリスト分類作業



参考：サイトを細かく分割して内容ごとに分類

- 一つのサイトをさらに細かく分類することで初めて実用に耐えうる



※ディレクトリ構造とコンテンツが一致しない場合などは、サイト/ドメイン単位でもっとも特徴的なカテゴリに登録するケースも

4. 携帯電話向けフィルタリングサービス

- 各分類カテゴリの閲覧可否選択
 - サービス提供者側が受信者(保護者)に代わって決定・提供
 - 未成年者のリスク懸念上必要と思われる規制ルールを選択
 - 閲覧規制対象カテゴリの組み合わせは各社それぞれ一種類のみ
 - 受信者側の状況(子どもの成長)に合わせたカテゴリ選択(変更)は行なえない
- 個別サイトURLについての規制追加・解除
 - 受信者(≒家庭)個別の事情・方針に合わせ、特定サイトURLを規制追加(または削除)する仕組みが提供されていない
 - リスト共有利用には欠かせない「最大公約数に合わない利用」の際の解決策が無い
 - 保護者の開設したブログ記事も閲覧できない、など

参考：主要各社のサービス方式

	「公式メニュー」等を除き 原則として全ての閲覧を制限 (許可リスト方式)	特定カテゴリのサイトのみ 閲覧を制限するタイプ (規制リスト方式)
閲覧可能サイトの数	少なくなる(1万サイト以下)	多くなる(数千万サイト?)
NTTドコモ	無償提供中 (キッズ iモードフィルタ)	無償提供中 (iモード フィルタ)★
ソフトバンクモバイル	無償提供中 (Yahoo!きっず)	無償提供中 (ウェブ利用制限サービス)★
au	無償提供中 (EZ安心アクセスサービス)	2008年提供予定
ウィルコム	一部専用端末に提供	無償提供中 ★ (有害サイトアクセス制限サービス)

※出所：2007年12月21日現在の各社ウェブサイトおよび報道発表等からネットスターまとめ。★はネットスターがURLリスト提供。

参考:カテゴリ選択の実際(規制リスト方式実施の各社)

- 規制される主なカテゴリ
 - アダルト
 - 出会い
 - 違法
 - 薬物
 - 自殺・家出・誹謗中傷
 - 掲示板・ブログ・チャット
 - SNSなどコミュニティサイト
 - ギャンブル
 - グロテスク
 - オカルト
 - ウイルス配布
 - 喫煙・アルコール
など

- 規制されない主なカテゴリ
 - ゲーム
 - 着メロ、着うた
 - 占い
 - ショッピング
 - テレビや映画の情報
 - 乗り換えや地図の情報
 - 就職・転職
 - スポーツ
 - グルメ
 - 懸賞
 - 公共機関のウェブサイト
 - ニュースや天気予報
など



※規制されるカテゴリは各携帯電話事業者ごとに異なります。詳細は各社ウェブサイト等で確認ください。
NTTドコモ「iモードフィルタ」http://www.nttdocomo.co.jp/service/imode/menu_site/kids_imode/index.html
ソフトバンクモバイル「ウェブ利用制限」http://mb.softbank.jp/mb/support/safety/web/for_kids.html
ウィルコム「有害サイトアクセス制限サービス」<http://www.willcom-inc.com/ja/service/filtering/index.html>

5. フィルタリングでは解決が困難なトラブル

- いわゆる「出会い系サイト」以外での「出会い」
 - トラブルはネット上のどこでも起こりうる
 - 参考:どんなサイトで知り合ったか(中学生)※
 - SNSやコミュニティサイトの掲示板 39.6%
 - 自分のブログ・プロフィール 35.4%
 - 趣味のサイト 29.2%
- 不適切な情報発信
 - 本名、顔写真、住所などの不適切な扱い
 - 誹謗中傷等の書き込み

6. コミュニティサイト取り扱いの課題

- 現状では「相互発信型利用に伴う懸念」向けにコミュニティを一種類のカテゴリとして分類
 - 「未成年者向けとして適切・不適切」の評価軸の追加が欲しいとの声
 - 「適・不適」の線引き参考となる、社会的な合意未形成
 - リスト上での単純な新分類追加には現時点では踏み切りにくい
 - コンテンツ事業者側の取り組みには期待
 - 第三者機関によるコンテンツ審査・運用監視の仕組みづくり
 - 多くの利用者(保護者)から信頼を得られるかどうかポイント
 - システムや目視による監視体制が有効に機能しているか、掲載広告やリンク先は適切かなど、利用者の視点に立った外部評価が必要

7. 今後

- ネットスターの取り組み
 - コミュニティサイトの客観外部評価の提供検討
 - 第三者機関による早期の基準実装にも期待
- 関係各社・省庁に期待すること
 - 携帯フィルタリングサービス高度化への社会的支援
 - 複数ルールからの選択、個別サイトの規制追加・解除を可能に
 - 未成年者向け情報関連教育の体系化
 - 国際競争力の視点でもインターネット活用(発信)力習得は不可欠
 - 情報リスク教育の対象拡大
 - 未成年者だけでなく、大人にも発信型ネット利用のリスク啓発を